

よどじん

「選手交代、大平入ります!」
 ひときわ小柄な選手がコートに降り立つと、
 それまで劣勢だったチームの空気が明らかに切り替わった。
 抜群のスピードでコートを駆け回り、
 わずかなスペースを見つけ仲間からボールを受けとる。
 サークルの外から高く放たれたボールは、きれいな放物線を描き、
 吸い込まれるように3ポイントのネットを揺らす。
 今月のよどじんは、

「デフバスケットボール日本代表」

おお ひら よし たつ
 #5 大平良龍選手



バスケやるけど、良龍はどうする?

大平選手がプレーするのは、デフバスケットボールという聴覚障がい者によるスポーツ種目。生まれつき聴力が弱かった少年とバスケとの出会いは小学校3年生の時に訪れた。双子の姉が「私バスケやるけど、良龍はどうする?」と誘ってくれたのがきっかけだった。

小学生チームながら週4回の練習をこなし、入部当初は弱小だったチームも、小学校6年生の時には県大会に出場するまで成長した。中学・高校と地元福岡で健聴者とのバスケの道を貫いた大平選手。その後、大学受験に見事合格するが、周囲を驚かせるある決断をする。

驚きの決断、その理由は「腰痛」

それは大学進学を辞め、スポーツトレーナーを養成する専門学校に行くという選択。家族や周囲の猛反対を押し切り、迷うことなくその道を選んだ理由、それは持病の「腰痛」だった。小学生の頃から激しい腰痛に悩まされ、どうす



▲ボールを受け取り、すかさずシュートを放つ。

What's デフバスケ??



聴覚障がい(Deaf)を持つ選手がプレーするバスケットボール。基本的なルールは健聴者のバスケと変わらないが、選手達はチームメイトの声、ドリブルの音、審判の音がまったく聞こえない状態でプレーする。ろう者のオリンピック「デフリンピック」では古くから正式種目として採用され、4年に一度、世界選手権も開催されている。



れば良くなるのかと、様々な治療を受け続けていた。そして、いったいつまで治療を続ければ治るんだろうかと、疑問が頭をよぎった。

だったら、自分の腰は自分の力で治す。何と、自ら治療の担い手となる決意をしたのである。

君なら日本代表になれる

周囲の反対を押し切りトレーナーへの道を歩み始めた大平さん。しばらくバスケとも距離を置いていたある日、大きな分岐点となる出会いが訪れた。

友人の誘いで高校時代から週末だけ参加していたデフバスケの会場で、人並み外れた運動量でプレーする大平さんの雄姿を、当時の日本デフバスケットボール協会の理事が見逃さなかった。

「君なら日本代表になれる。本格的にやってみないか?」心が大きく揺れた。

出会いの2年後、2009年デフリンピック台北大会に向け来阪。21歳の若さで見事日本代表デビューする。

チームのため
 打ち続ける